

(別紙3)

沖縄県における効果的な捕獲に係る新技術の地域実証計画（評価報告）  
（効果的捕獲促進事業）

1 対象指定管理鳥獣の種類、技術名、実証地域及び時期

指定管理鳥獣名	イノシシ
技術名	島嶼部における外来イノシシの根絶に向けた 各種捕獲技術の運用（仮称）
実証地域	慶良間諸島（渡嘉敷村及び座間味村）
実証時期	令和2年7月～令和3年3月

注：実証地域の位置が分かる地図を添付すること。

2 現状の指定管理鳥獣捕獲等事業による捕獲の状況及び課題等

慶良間諸島は、沖縄本島北部や八重山地域などイノシシが生息する他の地域とは異なり、海岸まで切り立った地形が多く、人が容易に近づくことができない場所へイノシシが逃げ込む可能性が考えられ、一部の島で根絶できても、周辺の島から再び侵入してくることが懸念される。また、座間味島、阿嘉島及び慶留間島においては、天然記念物であるケラマジカが生息しており、錯誤捕獲を防ぐための対応も課題となっている。根絶を目指すためには、各島における効果的な捕獲手法について検討するとともに、効果的な捕獲体制の構築が求められる。

3 地域実証する技術の概要

渡嘉敷島において、給餌による誘引効果及び ICT 囲いわなによる多頭捕獲の検討を行ったほか、座間味島において、ヌタ場での捕獲手法の検討及び自動給餌機の開発を行った。また、ケラマジカやカラスの誘引対策として、座間味島、阿嘉島、慶留間島において、餌の設置方法の検討を行った。

注：実証する技術の写真や内容等の概要が分かる資料を添付すること。

4 具体的な実証の方法・内容

○給餌による誘引手法の検討

給餌による出没状況の変化や餌の選好性について検証を行った結果、給餌による誘引の効果が確認できた。また、圧ペントウモロコシと米ぬかでは、圧ペントウモロコシの方が選好されたため、圧ペントウモロコシを中心に使用する。

○ICT 囲いわなによる多頭捕獲の検討

イノシシの捕獲では、箱わなが一般的に使用されているが、捕獲される個体は1頭となることが多く、複数頭で行動していた場合、1個体を捕獲することで他個体

の警戒心を強める可能性がある。また、効果的に個体数を減少させるためには、メスを捕獲することが重要であり、メスは血縁で行動していることが多いことから、多頭捕獲が行える囲いわなが向いていると考えられる。そのため、囲いわなによる捕獲の効果について改めて分析を行った。その結果、事前給餌により来訪した個体に対する捕獲成功率は75%と高い結果となり、捕獲後の翌日にも捕獲が成功することから、箱わなに比べ、比較的警戒心をもたせずに捕獲が可能なわなと考えられる。今後、警戒心の高い地域においては、囲いわなを有効に活用したい。

#### ○ヌタ場での捕獲手法の検討

ヌタ場はイノシシにとって必要不可欠な場所であり、水場が少ない座間味島においては特に重要な場所と考えられることから、ヌタ場周辺において、くくり罠を用いた捕獲手法について検証を行った。その結果、短期間ですべての罠への干渉が確認されたが、地域の土壌が粘土質という特徴もあり、雨天時にわなが正常に稼働せず、逃げられてしまう等の課題が見えたことから、今後、課題解決に向けた新たな捕獲手法の導入について検討を行う必要がある。

#### ○自動給餌機の開発

過年度において、給餌後、人の気配を感じ警戒心してすぐには出沒しないイノシシがいる一方で、カラスが先に餌を食べつくすなど、給餌の効果が十分に発揮できない状況があったことから、イノシシを効果的に誘引できるよう自動給餌機の開発を行った。効果については、狩猟による捕獲圧の影響もあり、イノシシの警戒心が想定以上に高く、十分な検証を行うことができなかったことから、引き続き、検証を行う必要がある。

#### ○餌の設置方法の検討

ケラマジカやカラスなど他の動物の誘引対策として、餌（サツマイモを使用）の埋設による効果について検証を行った。その結果、地面に餌を置いた場合に比べ、餌を埋設することにより、イノシシの採餌率が高くなることが確認されたことから、混獲対策としても有効と考えられる。

注1：2の課題等を踏まえた技術実証の方法や内容を具体的に記入すること。

注2：事業終了後の評価報告においては、注1を踏まえ、その評価結果を具体的に記入すること。

## 5 その他

注：地域実証に当たって、特記すべき事項があれば記入すること。